

二〇二一年度 大妻中野中学校 第二回海外帰国生入試

一月九日 問題用紙

国語

受 験 番 号	
番	
氏 名	

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて10ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認して下さい。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに受験番号と氏名を忘れずに記入してください。
- (四) 受験番号は算用数字で記入してください。
- (五) 試験時間は五十分です。
- (六) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (七) この試験は百点満点です。

【一】 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。（字数は記号・句読点も一字と数えます。）

フランス菓子が世界一？

皆さんは、甘いものが好きでしょうか？ 私は大好きです。甘みや糖分は栄養・エネルギー源になるだけでなく、疲れた精神に慰みと喜びを与えてくれます。それはどうしてでしょうか？ ①その問いに答えることは容易ではありませんが、実際、人類は歴史の進展とともに、一貫して糖分摂取を増加させ、最近にいたるまで、その上昇はとどまることを知りませんでした。

さて、甘いものの代表格である「お菓子」は、いつどこでどのようなものが作られたのでしょうか。また、いろいろとある食べ物なかで、それはどんな位置を占めているのでしょうか。そして、歴史とどう関わっているのでしょうか。こうした問題は、あらゆる国・地域のお菓子について考えてみることができるでしょう。しかし、私の信じるところでは、ほんとうに歴史を映す鏡として、社会や文化の重要な要素として、それらを象徴するものとなっているのは、フランス菓子だけだと思うのです。「それは、あなたがフランスびいきだからでしょ」と言われてしまえば、そうかもしれないませんが、本論を読んでいただいて、皆さんにも納得してもらおうと思っています。

世界中に数あるお菓子やケーキ——最近ではスイーツという用語が流行になっていますが、フランス語ではパティスリーといいます——のなかでも、フランス菓子がやはり一番だ、というイメージは、皆さんのなかにもあるのではないのでしょうか。東京や神戸で、つぎつぎ出店するパティシエのお店は、ほとんどがフランス菓子屋ですし、デパ地下を五色に甘く美しく彩っているのも、フランス菓子です。フランスで修業したパティシエの動向がテレビや雑誌で特集され、彼らが作る創作菓子にもフランス風の名前がつけられます。もちろんドイツ、イギリス、イタリア、アメリカなどにも有名でそれなりにおいしいお菓子はあるのでしようが、「カントリー風」などと銘打っていても、フランス菓子の横に並べみると、なんだか冴えない引き立て役に思えてしまうのは私だけでしょうか。

「和菓子、とくに京都の和菓子を忘れていないですか」という声がどこから聞こえてきそうです。たしかにそうですが、これについてはまったく別の角度から論じなくてはなりませんし、日本においても、フランス菓子と和菓子とは、食べる機会や役割がうまく棲み分けられていて、対抗関係にはないので、ここでは触れないことにします。

この「お菓子はフランスが一番だ」という認識は、フランス人だけでなく、世界中で共有されています。なぜ、そうなったのでしょうか。これを理解することは、とりもなおさず、フランスという国、その歴史を理解することにはかなりません。カギは、フランス文化の成り立ちと、文化的世界戦略にあります。

I

お菓子というのは、ファッションや社交儀礼（せうかい）とおなじように、その土地の文化の*₁精華（せいか）のひとつです。それが精華になりえたのは、生きるために不可欠な食べ物ではないから、社会関係や文化の潤滑油（じゅんかつゆ）・調整の道具として、余分なものとして付け加わったからです。だからお菓子は、地位や権力だけでなく、遊びやしれつ気とも結びつくのです。

塩や水なしに人間は生きられません。だから塩や水をめぐつては、政治的・**X**な力がはたらきます。それをはさんで、支配や*₂隷属（れいぞく）という関係が生まれるのです。**A**、カール・ウイットフォーゲルというアメリカの中国研究者は、水を治めること、**B** *₃灌漑（かんがい）・水利（すいり）こそが、

専制主義的な国家の起源だと述べています。**C**「塩税」はどこでもありふれたものでしたし、ローマ時代には、役人や軍人に支給される俸給（ほうききゅう）として、塩が用いられたこともあります。

D 甘味料（かんみりょう）つまり砂糖は、香辛料（かうしんりょう）とおなじように、生きるために必要というわけではありません。それはむしろ、良く生きるために必要なものなのです。だから、甘いもの、そしてお菓子は、さしあたり、政治的・**X**な支配ではなく、**Y**な支配の力関係のなかに取り込まれることになりました。**Y**な価値であるがゆえに、人々は甘いものに夢中になるのです。そのことをまず押さえておきましょう。

それから、ケーキ（フランス語でガトー）にせよ、チョコレート（シヨコラ）にせよ、アイスクリーム（グラス）にせよ、甘いものは、肉やご飯のように主菜・主食として食べられるわけではなく、食間のおやつとか食後のデザートといった、食事体系のすみっこに追いやられています。おやつもデザートも、なくてもよいようなものですが、ないと寂しいとか、物足りないとか、楽しさが欠けるとか、そんな思いになるでしょう。まさに**②画竜点睛を欠く**（がりようてんせいをかけ）のです。またお母さんとの、あるいは恋人・友人や家族との、特別な「思い出」につながっているお菓子も、少なくないでしょう。

すみっこにある余分なものだからこそ、お菓子には、生活に甘美（かんび）なうるおいを与え、幸せな*₄感興（かんきよう）をわきおこす不思議な力があるのですし、また、そうした力を発揮（はつき）させるような多様な工夫が、たえず加えられつづけてきたのです。あたかも、労働と対立する余分なものである遊びが、単調な生活に張りを与え、生きる喜びをもたらしてくれるようにです。

そしてこの「余分なもの」を、いかに丹精（たんせい）込めてつくりあげ大切にしているかが、文化の質を測るひとつの基準となるのではないのでしょうか。しかも驚くべきことに、歴史を遡（さかのぼ）ってみると、洗練されたお菓子たちは、いつでも文明の伝播ルート（でんぱ）を忠実（ちゅうじつ）に伝って、文明度の高いところから低いところへ、東から西へ、西から東へと、各地に甘い夢を運んできたのです。

II

お菓子には、民俗学でいう「ハレ」（非日常的なもの）と「ケ」（日常的なもの）という区分では、古代から長らく**③「ハレ」の食べ物**でしたし、現在でも、そのなごりがあります。クリスマスケーキ、ウェディングケーキ、誕生日のケーキ、復活祭などの祭日のお菓子などがそれですし、日本でも、ちまき、柏餅（かしわもち）、ひし餅などが思い浮かび、東西両世界の符合（ふあう）に驚くことでしょう。最近では、バレンタインデーのチョコレートもそうか

もしませんね。

また、こうした「ハレ」の食べ物であるお菓子は、「贈り物」「プレゼント」「手みやげ」になります。誰にでも悦ばれますし、干菓子なら保存がきくので便利です。

さらに、お菓子は「装飾」がとことん可能で、それが許されています。お菓子ほど建築や芸術に近い食べ物はありません。いくら芸術的でも、それは一種の「まがいもの」で、すぐに壊され、食べられてしまうものではありませんが、他の食べ物ではあまり許されない、けばけばしい色彩やゴテゴテした飾り立てが可能なお菓子は、「洗練」や「繊細」といった感覚と親和的で、また「都会性」という価値が重要になってきます。田舎菓子も悪くはないのですが、高貴さや贅沢、洗練という立場からは価値が下がります。この最後の点は、西洋菓子とりわけフランス菓子の*5 真骨頂といえるかもしれません。

しかも、お菓子はもうひとつ優れた特徴をもっています。王侯貴族のような豪華な館や、華美な衣服、このうえない贅沢な食事は、庶民にはとても手が届きません。しかし最高級の贅沢な「お菓子」なら、誰にでも、少なくともたまには手に入ります。そうです、「お菓子」という食卓の小さな宝石は、誰でも口にすることができるところがミソなのです。最高の贅沢品でありつつ、誰にでも開かれた民主的な食べ物、こんな素敵な食べ物、ほかにありません。

III

では、こうした社会的な「位置」とそれに与えられた文化的「意味」をもつお菓子は、「フランス」という国の「歴史」とどう関わるのでしょうか。それが問題です。

お菓子で一国の歴史を語るなど、**Z**、まるで極小と極大をあえて結びつけようとしているのではないかと異論が出るかもしれませんが。しかし、もしそれが、一見、生きていくぶんにはまったくなくてもかまわないように見えるけれど、じつは文化発展に大きく寄与し、社会生活を潤滑にし、家族の思いを豊かにする重要要素であるならば、歴史と無関係ではありえません。それどころか、④それを国家戦略として利用した*6 特別な国があったとしても、不思議ではありません。

そのような国こそ、フランスでした。フランスは、長い歴史をつうじて——意識的にか無意識的にかはともかく——全精力を傾けて、お菓子という宝刀を磨いてきました。まずは国内で、さまざまな身分の思惑に合わせて身ごしらえし、ついで、国の外に向かって、そのうるわしい姿をアピールしていったのです。

もちろん、お菓子だけでなく「フランス料理」全体がそうしたアピールの対象になったのですが、お菓子には、それだけで他の料理と切り離しても使える小道具的な便利さがありました。つまり、高級なフランス料理は、まずはヨーロッパ、やがて世界各国の宮廷や上流階級の食卓へと広まりますが、一般庶民にはなかなか手が届きません。しかしお菓子なら、フランスの美食神話の尖兵として、一般人の手に取らせ、口に運ばせることが

可能でした。

フランスにとって、美食神話を広め、フランス料理やフランス菓子を、憧れの対象として「語らせる」「名前を呼ばせる」ことは、大切な戦略だったのです。それが大成功を収めたことは、極東の日本にいても、よくわかりますね。総合芸術としての美食の輝きは国境を越えて伝播し、フランス料理やお菓子は、美しさ、気ままな愉しみ、自由奔放、おしゃれ、都会風といったイメージをつぎつぎ紡ぎだしていきました。今や名前がフランス風であるだけで、その料理やお菓子は、ずいぶん価値があるような気さえします。どうでしょう、サヴァランとかアマンディーヌとかいった鼻にかかった名前のお菓子のほうが、ザッハートルテなどといった、堅苦しく喉が痛くなるような名前のものより、洗練されておいしそうだ、と感じられませんか。

こうした⑤フランス文化とお菓子との密接な関係を導きの糸として、フランスの歴史をたどっていきたいと思っています。「文化史」が中心ですが、文化史はそれだけで独立していませんので、政治・経済・社会・宗教などのあり方にも、話がおよぶことはもちろんです。

（池上俊一『お菓子でたどるフランス史』岩波ジュニア新書より）
※なお、作問の都合上、本文には一部改変されている部分があります

〔注〕 * 1 精華…そのものの本質をなす、最もすぐれている点。

* 2 隸属…他の者の言いなりになること。

* 3 灌漑・水利…田畑に必要な水を人工的に引いてきて供給・利用すること。

* 4 感興…何かを見たり聞いたりして興味がわくこと。

* 5 真骨頂…そのものが本来もっている姿。

* 6 奇特な…立派な。

問一

I Ⅲ には、それぞれのまとまりの内容を表す小見出しが入ります。あてはまるものとして適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア. 誰にでも手に入る「宝石」

イ. フランスの未来とお菓子

ウ. お菓子という武器

エ. お菓子という「余分なもの」

問二 — 部①「その問い」とありますが、どのような問いのことですか。最もあてはまるものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. なぜ「皆さん」に甘いものが好きなのかと聞いたこと。
- イ. なぜ筆者自身が甘いものを大好きであるのかということ。
- ウ. なぜ甘いものが栄養やエネルギー源になるのかということ。
- エ. なぜ甘いものが疲れた精神に慰みと喜びを与えるかということ。

問三

A

D

 に入る適切な言葉を次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア. しかし イ. また ウ. たとえば エ. すなわち

問四

— 部②「が画竜点睛を欠く」という慣用句の使い方として適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 風邪を引いたために、画竜点睛を欠く歌声になった。
- イ. 今日は雲が多くて、画竜点睛を欠く天気だね。
- ウ. お雑煮がないなんて、画竜点睛を欠く正月だ。
- エ. 試合に負けてしまって、画竜点睛を欠く思いだ。

問五

— 部③『ハレ』の食べ物」とありますが、その例を一つ挙げなさい。

※お菓子以外のものでも可とします。ただし、本文に挙げられているものは除きます。

問六 X Y にあてはまる言葉として適切なものを次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア. 精神的 イ. 経済的 ウ. 論理的 エ. 芸術的 オ. 文化的

問七 Z には四字熟語が入ります。あてはまる言葉として適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 本末転倒 ほんまつてんとう
イ. 大同小異 だいどうしょうい
ウ. 竜頭蛇尾 りゅうとうだび
エ. 針小棒大 しんしょうぼうだい

問八 — 部④「それを国家戦略として利用した」とありますが、このことを具体的に説明した部分を五十文字以内で抜き出し、はじめと終わりの五字を書きなさい。

問九 — 部⑤「フランス文化とお菓子との密接な関係」とありますが、お菓子がフランスの文化の一つになりえた理由を筆者はどのように説明していますか。その理由として示したあとの文を、本文中の言葉を使って完成させなさい。なお、空欄(1)は十字以内、(2)は二十五文字以内でそれぞれ補うこと。

お菓子がフランスの文化の一つになりえたのは、お菓子が (1) な食べ物ではないからであり、
また (2) として付け加わったからである。

問十 次のア～エの各文について、本文の内容と合っているものには○を、合っていないものには×をそれぞれ答えなさい。

- ア. お菓子はフランスが一番だという筆者の考えは、フランスの長い歴史と関連している。
- イ. 砂糖は香辛料と同じように生きるために必要ではないので、人々の砂糖への興味はなかった。
- ウ. このうえない贅沢なフランス菓子は、庶民にとって金銭的に高額だったので誰も手が届かなかった。
- エ. フランス風の名前の料理やお菓子でさえも、イメージが良く価値があるように思われやすい。

二 次の各問に答えなさい。

A 漢字に関する問題

問一 ①～④の――部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① マスクをつけて風邪を**予防**する。
- ② 友達から優しい**口調**で話しかけられた。
- ③ かすかに春の**気配**を感じられた。
- ④ これからは余計なものを**省**くようにする。

問二 ①～④の――部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 冬休みに**ケイケン**したことをまとめておく。
- ② 空気の入れ替えをするために窓を**カイホウ**する。
- ③ 外出の時には貴重品の**カンリ**に気をつけよう。
- ④ コーチの**シジ**にしたがって行動する。

問三 次の①～③の語と反対の意味を持つ熟語を、の中の漢字二字を組み合わせ作り、解答欄に書きなさい。
ただし、同じ漢字は二度以上使わないこと。

- ① 前進 ② 収入 ③ 減少

別・出・歩・増・一・退・定・支・後・分・加

問四 【 】の中の漢字を組み合わせ、□に当てはまる熟語を作りなさい。

(例) 【気 雨 口 井 分】 ↓ 雰囲気

① 【臣 長 弓 糸 又】 ↓ 人前で話すのは

--	--

する。

② 【心 子 可 大 女】 ↓ 彼女は

が強い。

③ 【田 言 不 義 心】 ↓

な力を持つ魔女。
まじよ

B ことわざ・慣用句に関する問題

問五 次の①②の慣用句の□には、体の一部を表す同じ語が入ります。共通して当てはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

① □を引っぱる・二の□を踏む・□がつく

② □をそろえる・□をかたむける・□をそばたてる

C 文法・言葉づかいに関する問題

問六 次の言葉を全て使って、三十字以内の短文を作りなさい。

① 不機嫌^{ふきげん} 理由 かしげる

② 目撃 疑い 晴らす

問題は以上です。